

循環型社会とリスク低減(化学物質管理)

循環の促進

化学物質によるリスク低減

同時に達成されるべき目標

静脈側から
みた課題

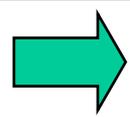
廃棄物の再資源化 → 廃棄物処理過程の変化

- ・新たなプロセスに伴うリスク発生回避
- ・再資源化製品群の安全性
- ・残渣の適正処理 (国際循環も含めて)

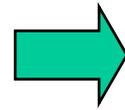
国立環境研究所 循環型社会・廃棄物研究センター
廃棄物試験評価研究室室長 貴田晶子

処理・再資源化プロセスに対して

廃製品・廃棄物の循環利用は新たな処理技術・再資源化技術を必要とする



新たなリスク発生の可能性、不明なリスク



リスクの実態と低減方策の必要性

例

家電

破碎処理、残渣処理(例えば溶融)

自動車

事前分別、解体・破碎・残渣処理(例えば溶融)

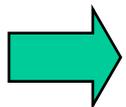
石綿含有廃棄物

除去・収集運搬・破碎・処理

新たな再生原料・再生材料・再生製品に対して

廃棄物の再資源化に伴う再生原材料・製品の利用促進は容易ではない

理由:利用者等の不安、不明確な廃棄物との違い(フェロシルト事案等)
(廃棄物由来の再生材料・再生製品の利用責任、不安定な品質、少量提供)



安全性評価手法の確立、再生材等の管理利用指針、

- ・多種多様な「リサイクル製品」と称するものがつくられている
- ・個別に対応せねばならない状況

再資源化に伴って発生する残渣について

廃製品・廃棄物の循環利用における処理プロセスで新たな種類の残渣が発生する 処理困難or有害な廃棄物の発生

例 家電、自動車等の溶融処理により発生する溶融飛灰
建設廃材の利用における防腐木材の影響

国際資源循環に対して

資源回収プロセスにおける作業者曝露、環境排出、資源回収残渣の適正な処理(環境排出低減)が求められる

例 基板の貴金属類回収で、加熱処理、水銀利用、回収後残渣は野積み？

循環の技術・プロセス・最終形態を考慮した循環を

製品・材料等の循環利用は促進されるべきであるが、同時に新たに発生する可能性のあるリスクは低減されねばならない。

-
- すべての製品・廃棄物が循環可能ではない
 - 回収した水銀は世界での需要が減少
 - 石綿含有廃棄物

最終保管の可能性

他の法令・制度との関連

資源循環に関連する法・制度との整合・協調が望まれる

・廃棄物処理法は再資源化材・製品を管理できるのか、しないのか

・廃製品の化学物質管理

製品中の化学物質管理

化審法・P R T R

情報管理・トレーサビリティ・W D S

・再生製品(土木資材)の化学物質管理

・循環利用・長期利用の管理

・他の資材・残土等廃棄物・汚染土壌との仕分け・整合性

土壌汚染対策法

・グリーン購入法における、これら製品の環境安全性品質

・再生製品(経口摂取の可能性ある製品)の化学物質管理

・食品衛生法、摂食リスク

・個別リサイクル法について、再資源化プロセス・関連製品・残渣に対する配慮